



郷小だより

茅ヶ崎市立浜之郷小学校

2025年7月1日

7月号

校長 安倍 武雄

学校教育目標 ～支えあう・聴きあう・学びあう～

子どもたちが自分を再発見し、友だちを再発見し、学ぶことの価値と意味を再発見して「人生最高の6年間」を生み出す学校、そして、その営みを通して教師も親もともに育ちあう学びの共同体としての学校でありたい。

浜之郷小学校はコミュニティ・スクールです。これでは、あまりよくわかりませんね。文部科学省は、以下のように説明しています。「学校と地域がパートナーとして連携・協働するために、学校は「地域に開かれた学校」から一歩踏み出し、地域でどのような子供たちを育てるのか、何を実現していくのかという目標やビジョンを地域住民・保護者と共有し、地域と一体となって子供たちを育む「地域とともにある学校」へと転換していく必要があります。コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）は、学校と地域住民・保護者が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」に転換するための仕組みです。この制度を導入することにより、地域ならではの創意や工夫を生かした特色ある学校づくりを進めていくことができます。」つまり、コミュニティ・スクールとは、学校運営協議会を設置した学校ということになります。さらに、学校運営協議会は次の3つの機能を持ちます。



- 校長が作成する学校運営の 基本方針の承認をすること（必須）
- 学校運営について、教育委員会又は校長に意見を述べることができること
- 教職員の任用に関して、教育委員会に意見を述べることができること

本校では、教育委員会とも連携しながらこのシステムを昨年から採用しています。本校の学校運営協議会の委員（本校職員2名を除く）は以下の通りです。

推進協	阿部 章	公民館	荒 名穂子	警察	井上 賢巳
病院	岩崎 克己	支援学校	野中 裕美	企業	真丸 博光
地域	鈴木 國臣	学識経験者	谷井 茂久	地域	南部 さつき
保・幼	原田 由美	地域	松本 楯臣	保護者	宮田 志穂（敬称略）

雨の登校 気温の高い日の登校

今年の梅雨はどうやらポジティブ傾向で、晴れの日が続くかと思うと、大雨が降ったりとメリハリがはっきりしています。

子どもたちはそんな中でも毎日歩いて元気に登校してきます。雨が激しいのに全身びしょ濡れの短パン、Tシャツの猛者もいますが、冷房の効いた教室では冷えてしまうこともあるかもしれません。ぜひ雨の激しいときには、カッパ・長靴の装備で学校に送り出していただけだと思います。また、靴下の替えやタオル、軽い上着なども持たせていただいて、学校で過ごしやすい環境を整えていただければと思います。

同様に、気温が高い場合も以前にお知らせしたとおり、熱中症等の対応をお願いします。塩分タブレットは下校時に教室を出るとき一粒で十分です。熱中症厳重警戒(WBGT 値28～)以上では外遊びを禁止していますので、休み時間には必要ありません。また、巻き込み等の危険性を考慮し、ハンディファンは禁止しています。ご理解、ご協力をお願いいたします。

昨年1年をかけて子どもたちと一緒に授業を受けていただいたり、職員との懇談の機会をもったりして、大人も子どもも含めて浜之郷小学校そのものをよくよくご覧いただきました。そして、今年になり、いよいよ浜之郷小学校の強みと弱みの検討に入っています。今後はその結果をもとに、地域と学校が手を組んでいったい何ができるのかを考えていくことになります。

地域・保護者と手を携えて、ともに「教師も親もともに育ちあう」学校にしていきたいと思っています。